

---

◇深 沢 義 一 議 員

○議長（森元淑雄） 最初に、11番、深沢義一議員の一般質問を許可いたします。深沢義一議員、登壇願います。

（11番 深沢義一議員 登壇）

○11番（深沢義一） 改めましておはようございます。

通告に従いまして一般質問をいたします。

質問の要旨は、今年11月に改選期を迎える町長選に向けての町長の考えを問うものであります。

町は今年20周年を迎えました。人の人生に例えるならば成人の節目を迎えました。平成の大合併県内第1号として誕生した我が町美郷町、この20年間の歩みは人口減少という、大きな時代の流れの中、確かな足取りを示してきたと思います。

町長が時々口にする「ゆっくり急ぐ」の言葉のとおり、急ぐべきはしっかりとした計画のもと、急速な時代の変化に則した確かな足跡を残してきた20年間であったと思うところであります。

20年前、融和と前進を旗印にスタートした松田町政、その言葉のとおり、この20年で融和は確実に図られ、もはや合併ではなく、その象徴は美郷中であり、「心一つに未来を築く」校訓のもと、卒業した生徒も1,920人に上るところであります。

そして前進、企業誘致や連携協定など、活性化につながる取組は多岐にわたり、龍角散との連携協定における生薬の里構想あるいは突然変異で生まれた白色ラベンダー、美郷雪華から発展する様々な企業との連携など、常に町と住民との連携のもと、前進しているところと感じておるところです。

また、その前進を支えているのが財政面での運営であります。合併当初町の債務残高、いわゆる借入金の額は165億円ほどでした。それがこの20年で89億円ほどに削減され、また、基金残高、いわゆる預金残高は18億円から68億円ほどと、4倍近くに増え、安定した財政運営も進めているところでもあります。

こうした成果、足取りの行財政運営については、町長のリーダーシップによるものが大きいものと、その手腕は町内外から高く評価され、多方面からさらに上を目指して活躍してほしいといった声も聞かれるところでございます。

そうした中で改選期を迎えるに当たり、町への思い、町長の描く町の将来像など、第3次総合計画にもありますけれども、再度お聞きし、その上で、改選に向けたお考えをお伺いいたします。

○議長（森元淑雄） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

(町長 松田知己 登壇)

○町長（松田知己） おはようございます。

ただいまのご質問にお答えいたします。

私はこれまで町民の幸せ感に町政がどう寄与できるのか、それを意識し、各般の取組を考え、推進してまいりました。

その推進の基盤は、町職員と町の財政であり、そのため、折に触れて職員との施策等に関する共通認識の醸成に努めるとともに、職員能力の向上に努め、また、財政の健全化についてもかなり気を配り、各般の対応に努めてきたところです。

町民の幸せ感につきましては、まさに人それぞれですが、美郷町での生活に満足感を覚え、その満足感に内在している幸福感について、町民がそれぞれ認識できる町になることを目標に、これまで汗を流してきたところです。

現在の町の姿については、必要な施設や制度は一定の水準にあると認識しており、また、そうした認識の延長線で整理したい町民の幸せ感も、民間企業の直近の調査結果では、町民自身を感じる「街の住み心地」や「街の幸福度」の評価が県内トップクラスに位置しているなど、目指す姿に少しずつ近づいてきているものと認識しているところです。

一方、行政を取り巻く状況は、社会環境の変化に伴い、常に新たな課題が生じ、それに適切に対応することが求められる状況にあります。

こうした状況を踏まえながら、町民がさらに町に自信を持つとともに、住む満足感、幸せ感がさらに膨らむ町になることが私の考える町の将来像ですが、そうした将来像に近づいていくためには、今後も社会環境の変化に伴う諸課題に適切に対応しながら、特徴のあるまちづくりに各般の取組を展開していくことが必要ではないかと考えております。

そうした認識及び現在進行形の町の取組状況を踏まえるとともに、いろいろな声をいただいている中で、今後について熟慮に熟慮を重ねましたが、引き続き町政の牽引役として頑張りたい思いに至り、次期町長選挙に挑戦する決意を固めました。

自分の政治信念である公平、誠実、展望の3つの言葉を大切にし、町民が美郷らしさを誇り、他者に語りたくなる美郷町になるよう、汗を流せる立場を目指してまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（森元淑雄） 再質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで、11番、深沢義一議員の一般質問を終わります。